

No.352

令和元年7月

二三男くんの
未来日記
大田区

IoTと町工場の底力で成長する地域力・国際都市おおた 大田区全体が新しいものづくり集団に

現在の蒲田駅西口



蒲田駅西口の夜景Ⅱ 1953（昭和28）年



23 TOKYO

特別区長会事務局
特別区議会議長会事務局
特別区人事・厚生事務組合
公益財団法人特別区協議会
東京二十三区清掃一部事務組合
特別区競馬組合

区政会館だより

巻頭特集記事

二三男くんの未来日記

03 第19回〈大田区〉

IoTと町工場の底力で成長する

地域力・国際都市おおた

大田区全体が新しいものづくり集団に

二三男くんの

未来日記

この連載では、70年前からタイムスリップしてきた
二三男くんが、23区の「人口ビジョン」や「地方版
総合戦略」等を通じて23区の将来の展望を探ります。

●特別区長会事務局

- 07 特別区長会新役員が東京都知事へ就任の挨拶
特別区副区長会新役員が就任
- 08 「特別区全国連携プロジェクト」の取り組みについて
東北絆まつり 2019福島への支援・協力・参加
- 09 第1回全国連携展示（群馬県市町村）
「ぐんま 鉄たび 湯たび 歩きたび」を開催しました
令和元年6月区長会の主な案件等

●特別区議会議長会事務局

- 09 令和元年6月議長会の主な案件等
- 10 特別区議会議長会会長就任あいさつ
- 11 特別区議会議長会新役員の選任

●特別区人事・厚生事務組合

- 12 組合教育委員会委員の就任
特別区立幼稚園教員採用候補者選考の応募状況
特別区立幼稚園園長・副園長選考受験申込状況
- 13 特別区職員採用試験・選考の申込受付を開始しました
- 14 令和元年第2回特別区人事・厚生事務組合議会定例会の結果
- 16 路上生活者対策事業の紹介（平成30年度実績報告）
- 18 9月の研修メニューを紹介します
- 22 判決と同時に届いた訴状（訴訟事件事例紹介346）

●公益財団法人特別区協議会

- 09 「特別区全国連携プロジェクト」の取り組みについて
第1回全国連携展示（群馬県市町村）
「ぐんま 鉄たび 湯たび 歩きたび」を開催しました
- 14 令和元年度公益財団法人特別区協議会評議員選定委員会の結果
令和元年度公益財団法人特別区協議会定時評議員会の結果
令和元年度公益財団法人特別区協議会第2回理事会
（みなし決議）の結果
- 19 首都大学東京オープンユニバーシティ
飯田橋キャンパスより8月開講講座のご案内です!!

●公益財団法人東京都区市町村振興協会

- 11 祝・「令和」最初の夏! 2つのサマーで運開き! 7月2日から発売

●東京二十三区清掃一部事務組合

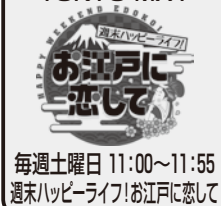
- 15 令和元年第2回東京二十三区清掃一部事務組合議会
定例会の結果
- 20 もっと知ってほしい。皆さんの身近にある清掃工場。

●特別区競馬組合

- 15 令和元年第2回特別区競馬組合議会定例会の結果
- 23 TCKの夏がアツイ!
- 24 TCK INFORMATION

8月放送予定表

TOKYO MX1



▶ 区長にききたい東京ハッピーライフ

放送日	ゲスト区長
8月 3日（土）	江東区 山崎 孝明 区長
8月10日（土）	品川区 濱野 健 区長
8月17日（土）	杉並区 田中 良 区長
8月24日（土）	台東区 服部 征夫 区長
8月31日（土）	港区 武井 雅昭 区長



TOKYO MX
番組配信サービス
「エムキャスト」
23区広報番組
毎週金曜日配信予定

配信開始日時	配信予定期間	提 供	番 組 名	サブタイトル（または放送内容）
8月 2日	8/2(金)~10/2(水)	葛飾区	葛飾区シティプロモーション動画（インタビュー編）	葛飾区の魅力を1分にまとめたプロモーション動画。たくさんの区民の方に葛飾の魅力を語ってもらっています。
	8/2(金)~10/2(水)	中野区	ピックアップなかの	今に残る貴重な文化財 今は消えた独特の習俗
8月 9日	8/9(金)~10/9(水)	北区	未定	未定
8月16日	8/16(金)~10/16(水)	世田谷区	魅せます! せたがや	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を盛り上げよう!
8月23日	8/23(金)~10/23(水)	品川区	未定	未定
8月30日	8/30(金)~10/30(水)	墨田区	オリパラ目前! 熱血オールすみだ	フェンシング&パラパワーリフティング
	8/30(金)~10/30(水)	豊島区	としま情報スクエア 東アジア文化都市2019 豊島	2014年から始まった日中韓、文化交流の国家プロジェクト『東アジア文化都市』。2019年の日本代表となった豊島区が世界に誇れるものとは? 豊島区では様々な文化資源のなか、「文化芸術」、「マンガ・アニメ」、「祭事・芸能」の3本柱で東アジア文化都市を盛り上げていく。

IoTと町工場の底力で成長する地域力・国際都市おおた

大田区全体が新しいものづくり集団に



蒲田駅西口の発展

「昔はアーケードなんてなかったよなあ」

二男三男の記憶に残る蒲田駅西口は、震災の焼け跡からヤマ市ができて、復興の兆しが見えてきた頃です。昭和30年頃から区画整理を中心に現在の商店街の前身ができて、昭和40年にはサンロードアーケード、昭和52年にはサンライズアーケードが完成しました。JR蒲田駅西口は駅ビルのグランデュオ蒲田、東急プラザ蒲田もできて、西口商店街と一体となって、街の賑わいを作り出しています。

「戦後、大田区が発展してきた原動力はなんだったんだろうか」

二男三男くんは、駅東口の大田区役

所に向かい、区政情報コーナーで『大田区人口ビジョン』と『大田区まち・ひと・しごと創生総合戦略』を借りて、読み始めました。

人口総数は70万人を突破

まずは『人口ビジョン』を読みました。

大田区の人口総数は、区が発足した1947（昭和22）年当時31万3746人でしたが、高度経済成長とともに急増し、1960（昭和35）年には70万人を超え70万6219人に、1965（昭和40）年には75万5535人となり、ピークを迎えました。その後減少に転じた人口は、1985（昭和60）年に一時横ばいとなったものの、1995（平成7）年には63万6276人まで減少しま

した。その後は回復基調となり、2010（平成22）年には69万3373人となり、2015（平成27）年の国勢調査では再び70万人を超えています。

出生数は、2010（平成22）年には5527人で、2012（平成24）年にかけては5千人台半ばで推移していましたが、その後急増し、2013（平成25）年には5740人、2014（平成26）年には5803人となっています。死亡数は、2010（平成22）年には5860人で、その後は増加傾向にあり、2014（平成26）年には6295人となっています。

大田区の将来人口推計

2005（平成17）年以降の趨勢

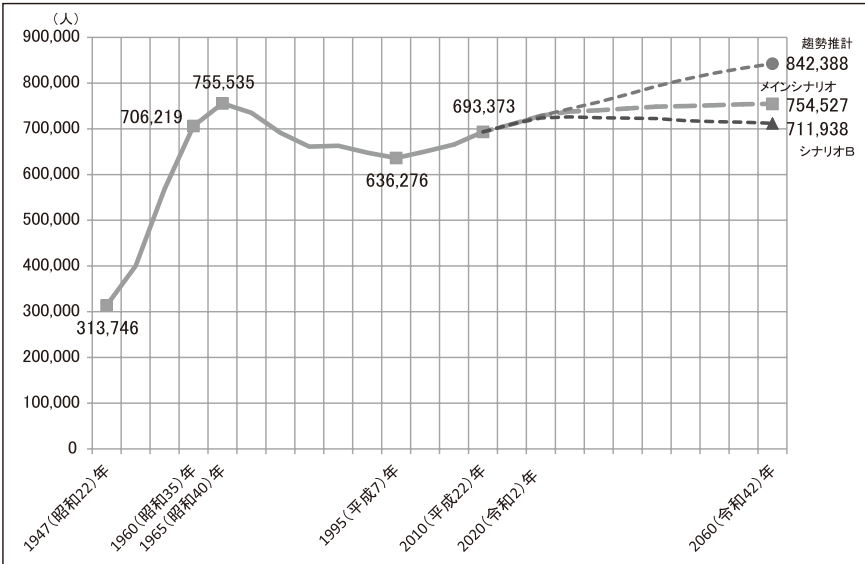
に従って大田区の将来人口を推計すると、2010（平成22）年の69万3373人から増加を続け、2060（令和42）年には84万2388人に達するとの結果が得られます。一方で、地方における人口減少の影響で転入者が減り、そう遠くない未来に人口増加速度は落ち着くという見方もあります。

そこで、『人口ビジョン』では、将来人口を考える上でのメインシナリオとして、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020（令和2）年から徐々に人口増加速度が落ち着くと仮定。趨勢に比べて2020（令和2）年以降の転入者を少なく設定しました。

この場合、2060（令和42）年の人口は75万4527人となり、



■大田区独自の人口推計



趨勢推計の人口よりも8万8千人程度少なくなります。この人口は、1965（昭和40）年に記録した最大人口（75万5535人）にほぼ匹敵する水準です。

また、可能性は低いと考えられるものの、転入元の人口減少が予想以上に早く進展すると仮定したシナリオBによる推計も行っています。こ

のシナリオでは、2060（令和42）年の人口は71万1938人となりました。

これらの分析を踏まえて、『人口ビジョン』では、人口の将来展望からみる「めざすべき方向性」について、①若者・子育て世代への支援、②高齢社会への対応、③産業構造の変化への対応、④まちの魅力のさらなる向上、⑤効果的・効率的な区政運営の5点を掲げました。

※大田区では『人口ビジョン』を2016（平成28）年に作成後、その翌年に将来人口のメインシナリオを最新データに基づき再計算しました。これによると、2060（令和42）年の人口は73万208人になります。

3つの基本目標

二三男くんは次に『総合戦略』を読みました。

『総合戦略』では、(1)「しごと」の視点―地域経済のイノベーションと持続的な成長を牽引します―(2)「まち」の視点―世界とつながる大田区が国内各地と世界をつなげます

(3)「ひと」の視点―若者の家庭を築きたいという願いを多方面から応援します―の3点を示し、それに基づく基本目標を設定しています。

基本目標1は、「様々な産業を支える世界トップレベルの技術力の集積や、人と人とのつながりにより、新たなチャレンジが次々と生まれる創造のまちを目指す」としています。施策としては、「ものづくりにおける新たな価値の創出」「暮らしを支え豊かにする地域ビジネスの発信」「ビジネスがしやすいまち大田区の形成」を挙げています。

基本目標2は、「羽田空港を擁する地の利を活かし、地方との連携・交流・共存共栄を図るとともに、国際都市としての発展を目指す」としています。施策としては、「拠点機能を活かした国内外との交流促進」「国際交流拠点としての魅力を高める環境整備」を挙げています。

基本目標3は、「結婚・出産・子育て・教育などの希望を叶え、未来を担う若い世代の活力あふれるまちを目指す」としています。

二三男くんは、基本目標1に特に関心を持ち、さらに具体的な施策を

調べてみることにしました。

3千以上の町工場が集積

大田区は、都内最多の3千以上の町工場が集積しています。『大田区ものづくり産業等実態調査』（2015年3月）によると、下請け型加工・生産を主体とする事業所が全体の7割を占めています。また、約3分の1の事業所が既存事業分野もしくは異業種での新規顧客開拓に関心を持つている一方、6割強の事業所が技術・技能の継承に危機感を感じていたり、事業の継承者を「決めている」「企業がなくなっています」。

この他、区内での創業・事業所開設の理由は、「多様な外注先が多く立地」と「受注先が多く立地」が第1位と第2位を占めており、区内における濃密な受発注ネットワークの存在が大きいことがうかがえます。

区は、都市部での工場や研究開発型企業の立地促進、操業環境を整備するため、首都圏最大級の工場アパートを設置しています。建物は地価の負担を軽減するために4～5階建のビルになっており、土地の高度利用を図っています。

現在、区内には工場ユニット数が30室を超える大型の工場アパートとして、公設公営の「本羽田二丁目第2工場アパート」（テクノWING）と「大森南四丁目工場アパート」（テクノFRONT森ヶ崎）、民設民営による「東糀谷六丁目工場アパート」（OTAテクノCORE）の3カ所があります。その他にも、建替え等の一時利用が可能な「下丸子テナポラリー工場」や、「本羽田二丁目工場アパート」を含め、計5カ所の工場アパートを区内に整備しています。

また、旧区立小学校校舎を改修し、区内産業の活性化と地域中小企業者の技術力向上を目的として、

“仲間まわし”も新しく 進化

2006（平成18）年に開設した「産学連携施設」（蒲田二丁目）、旧区立小学校校舎を改築し、新規創業者の創出や既存企業の新分野進出促進を目的として2003（平成15）年に開設した「創業支援施設」（ビジネスインキュベーションセンターBICあさひ、羽田旭町）といった支援施設も開設しています。

大田区には、切削、プレス、成形、

研磨、鋳造、鍛造、メッキなどの基

盤技術に特化した企業が数多く集積

しています。それぞれの企業が連携

しあうことで、高精度で複合的な加



東糀谷六丁目工場アパート
（OTAテクノCORE）



本羽田二丁目第2工場アパート
（テクノWING）



大森南四丁目工場アパート
（テクノFRONT森ヶ崎）

工技術と短納期に対応できる迅速性を実現してきました。コンパクトな経営規模の工場が高度な加工技術を有しており、各工場が協力し合うことで難しい製品・部品を製造しています。こうした連携体制は「仲間まわし」と呼ばれ、産業集積地である



羽田空港跡地第1ゾーン全体外観

大田区の強みです。

しかし、産業構造が急速に変化する中で大田区の町工場は、連携体制の進化と従来の下請け構造の「待ち受け型企業」から、顧客ニーズをいかに実現するかを立案する「提案型企業」への変革が求められています。

また、羽田空港跡地第1ゾーンでは、企業誘致とイノベーション創出の「先端産業事業」と日本文化を発信する「文化産業事業」を中心とした様々な取り組みを展開することで区内外の人々、企業、情報が集い、交わる「新産業創造・発信拠点」を形成する開発が2020（令和2）年のまち開きに向けて進められています。ここでは、研究開発を行う企業の集積が見込まれており、これらの企業との取引を実現させるためにも、大田区の町工場の変革が重要になります。

こうした背景を踏まえ、大田区では、区内の町工場をIoT基盤で結びと共、提案型企業への変革を支援し、大田区全体が新しいものづくり集団となって、国内外からより多くの受注獲得を目指すIoT仲間まわしプロジェクトを展開しています。



す。

なお、IOTは、「インターネット・オブ・シングス」の略で、すべての「モノ」がインターネットでつながることにより、情報を共有し新たな価値を生む考え方です。

例えば、ICTタグを活用した工程管理システムがあれば、製造の進捗状況を各社が共有し、納期の遅れなどを把握することができます。

IOT技術に適用した仕組みに

このプロジェクトは、三つのテーマの立ち上げにより価値を創出します。

一つ目は、プロセスイノベーションです。IOT技術の活用により仕事の流れを変え、品質（Ｑ）、コスト（Ｃ）、納期（Ｄ）（ＱＤＣリバー）を改善し、複数企業が連携する製造工程を円滑に運営します。

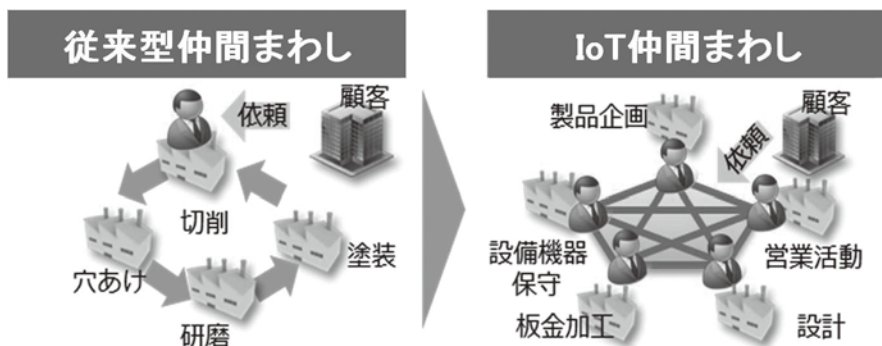
二つ目は、プロダクトイノベーションです。製品そのものの価値を高め、下請け型でない提案型の新たなものづくりを行う仕組みを確立するとともに、企業自身の成長も促し

ます。

三つ目は、これら二つのイノベーションを推進する中小企業の連合体（コンソーシアム）を構築し、実際に受注を獲得していく仕組みを作ります。

コンソーシアム構築により、中心となるハブ企業と仲間企業でグルー

IoT仲間まわしの概念図



プを構成するとともに、ハブ企業同士が連携することで大田区全体のものづくりを高度化していくことが期待されます。

昨年、区内の三つの企業が合同会社を設立し、コンソーシアムとして実際に受注案件を獲得しています。

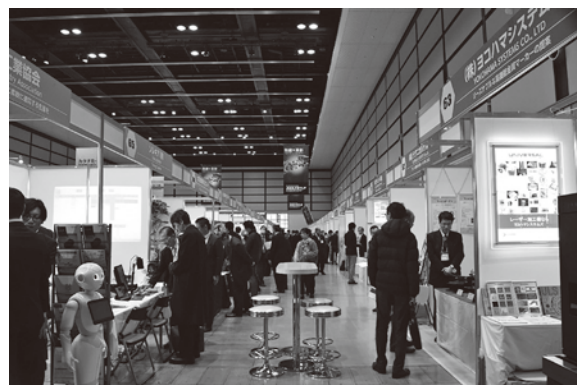
2019（令和元）年度は実証実験の主体となるコンソーシアムへの参加企業を増やし、自主運営化を進めます。実証実験の主体となるコンソーシアムを中心に大田区全体にIOT技術を適用した仕組みをさらに進めます。

これら一連のものづくりの効率化と高付加価値化により、区内企業の受注獲得と利益の拡大を図ります。

若い世代の雇用創出にも

大田区は、特定の大企業が拠点を持つ企業城下町ではありません。小さな町工場は大量生産には向きませんが、特定の分野で高度な技術を持っています。

二男くんは「町工場」というと、昔は3Kのイメージがあり、せつかく高度な技術を持っていたても、働き手や後継者がいなければ、町工場は



大田区のものづくり企業が一堂に会する「おた工業フェア」

減っていくばかりだと思っていた。でも今は、IOTを駆使して新しい技術を取り入れていることが分かった。IOT仲間まわしによって、大田区全体が新たなものづくり集団となつて、価値の高い製品を生産することができれば、大田区のものづくり産業をグレードアップできるし、大田区の町工場で働いてみようという若い人たちも増えて、雇用の創出や事業承継にもつながるのではないかと感じました。

一通り調べ終えた二男くんは、お腹がぐーっと鳴ったので、アーケード街でお昼ごはんを食べに蒲田駅前へと戻りました。